

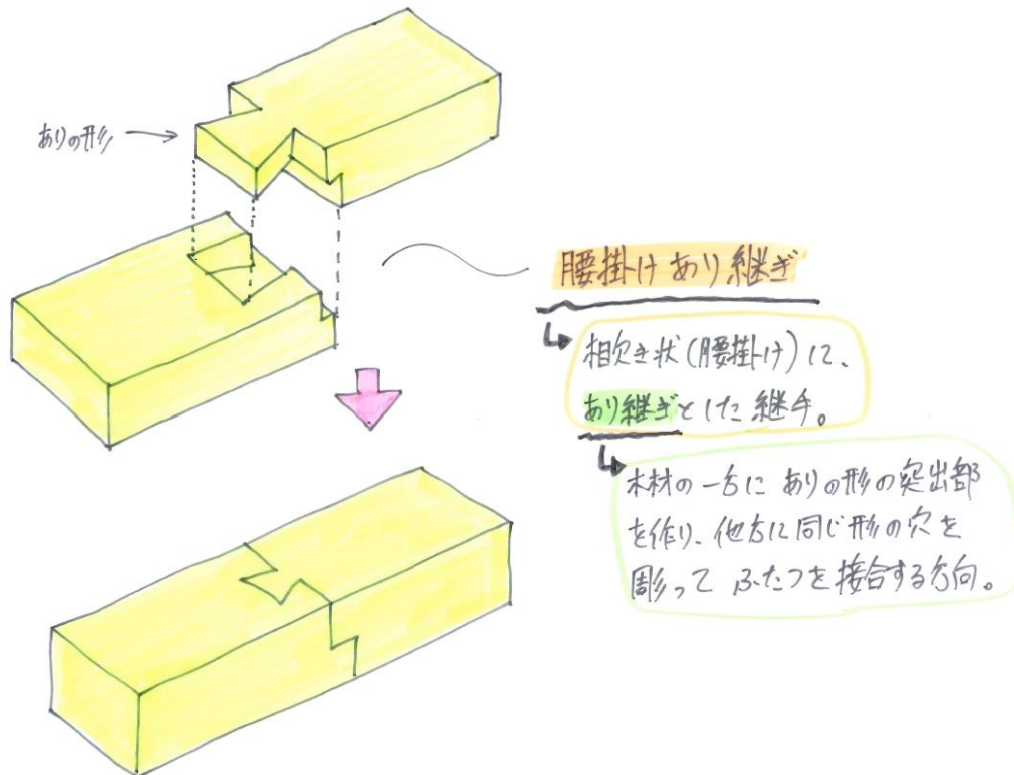
# V 施工 (22. 各部工事総合) ①重要事項の解説

「22. 各部工事総合」で2回以上繰り返し出題のある重要項目 (H8～H27) は、下記の通りである。

## (1) 木工事

※過去に選択肢問題として5回出題有

- 木工事において、造作材の工事現場搬入時の含水率は、重量比で18%以下とした。
- 木工事において、構造用ボルトには、M12以上のものを用いた。
- 木造3階建住宅で耐震性を考慮し、土台を介して柱と基礎を緊結するためにホールダウン金物を用いた。
- 木造軸組工法での土台木材は、耐腐朽性・耐蟻性に優れるひのき、べいひ、ひば、くり、けやきなどを製材とする。
- 木工事において、大引の継手は、束心から150mm程度持ち出した位置で、腰掛けあり継ぎ、釘2本打ちとした。



## (2) ISO

※過去に選択肢問題として5回出題有

- ISO 9004-1(JIS Z 9904)は、品質管理及び品質システム要素についての指針を与える規格である。
- ISO 9001(JIS Q 9001)の規格での品質マネジメントシステムの文書に用いる媒体は、紙でなくてもよい。
- ISO 14001(JIS Q 14001)は、環境マネジメントシステムの要求事項を規定している。

## (3) 張り石工事

※過去に選択肢問題として4回出題有

- 高さが30mの建築物において、外壁の張り石工事は、乾式工法とした。
- 外壁乾式工法による張り石工事において、石材の裏面と躯体コンクリート面との間隔を、90mmとした。

## (4) 空洞コンクリートブロック工事

※過去に選択肢問題として4回出題有

- 空洞コンクリートブロック工事において、ブロックの1日の積上げ高さを1.6m以下とした。

## (5) 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事

※過去に選択肢問題として3回出題有

- 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事で、新設耐震壁と既存部との取合い部分には、割裂補強筋を設けた。
- 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事で、新設耐震壁のコンクリート打込みは、圧入工法を採用し、打込み高さが大きい場合圧入孔管を2段に配置した。
- 同上工事で新設耐震壁のコンクリートの打込み後、強度が十分発現してから、グラウティングを行う。

## (6) ALCパネル工事

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ALCパネル工事において、開口部の周囲の補強鋼材は、**風荷重**を構造躯体に伝達できるように取り付けられた。
- ALCパネル工事の外壁取付け構法の選定は、大きな層間変位に追従可能な**スライド構法**を採用した。
- ALCパネル工事において、充填用モルタルの調合は、**容積比**でセメント1に対し砂3の割合とした。

## (7) 腐食

※過去に選択肢問題として3回出題有

- 銅板葺屋根に取り付ける軒樋は、**異なる材質**の溶融亜鉛めっき鋼板製とすると、腐食が早まることとなる。
- 屋根工事において、**銅板葺**の留付けに用いる固定釘については、ステンレス製の釘とした。

## (8) 錆止め塗料

※過去に選択肢問題として2回出題有

- 屋外に露出する鉄鋼面への錆止め塗料塗りは、**鉛・クロムフリーさび止めペイント**を使用した。

## (9) モルタル塗り厚さ

※過去に選択肢問題として2回出題有

- コンクリート下地セメントモルタル塗りの1回の塗り厚さは、6mmを標準とする(最大で**9mm以下**)。